

千葉市感染症発生動向調査情報

2020年 第26週 (6/22-6/28) の発生は？

1 定点報告対象疾患(五類感染症)

報告のあった定点数	26週	25週	24週	23週
小児科	18	18	18	18
眼科	5	5	5	5
インフルエンザ*	28	28	28	28
基幹定点	1	1	1	1

上段:患者数

下段:定点当たりの患者数

「定点当たりの患者数」とは
報告患者数/報告定点数。

定点	感染症名	千葉市					千葉県
		注意報	6/22-6/28	6/15-6/21	6/8-6/14	6/1-6/7	6/15-6/21
			26週	25週	24週	23週	25週
小児科	RSウイルス感染症		0	0	0	0	0
	咽頭結膜熱		1	0	0	0	7
	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎		15	9	2	5	88
	感染性胃腸炎		26	33	32	19	185
	水痘		3	2	3	2	8
	手足口病		0	1	5	4	20
	伝染性紅斑		0	2	1	0	4
	突発性発しん	○	24	19	13	14	69
	ヘルパンギーナ		0	1	0	0	4
	流行性耳下腺炎		2	3	1	2	10
インフル	インフルエンザ*(高病原性鳥インフルエンザを除く)		0	0	0	0	0
眼科	急性出血性結膜炎		0	0	0	0	0
	流行性角結膜炎		1	2	0	0	4
基幹定点	細菌性髄膜炎 (髄膜炎菌性髄膜炎を除く)		0	0	0	0	1
	無菌性髄膜炎		0	0	0	0	0
	マイコプラズマ肺炎		0	0	0	0	2
	クラミジア肺炎 (オウム病を除く)		0	0	0	0	0
	感染性胃腸炎 (ロタウイルスに限る)		0	0	0	0	0

★★:流行中 ★:やや流行中 ◎:増加 ○:やや増加 →:変化なし ↓:やや減少 ↓↓:減少

2 全数報告対象疾患(5件)

病名	性	年齢層	診断(検査)方法	病名	性	年齢層	診断(検査)方法
結核	男性	50歳代	IGRA検査	新型コロナウイルス感染症	男性	20歳代	病原体遺伝子の検出
結核	男性	80歳代	病原体等の検出	新型コロナウイルス感染症	男性	30歳代	病原体遺伝子の検出
カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症	男性	70歳代	細菌の分離・同定、 薬剤耐性の確認 及び起因菌の判定	-	-	-	-

・第26週は、結核2件(68)、カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症1件(7)、新型コロナウイルス感染症2件(114)の発生届があった。

※ ()内は2020年の累積件数。但し、累積件数は速報値であり、データが随時訂正されるため変化します。

定点当たり報告数 第26週のコメント

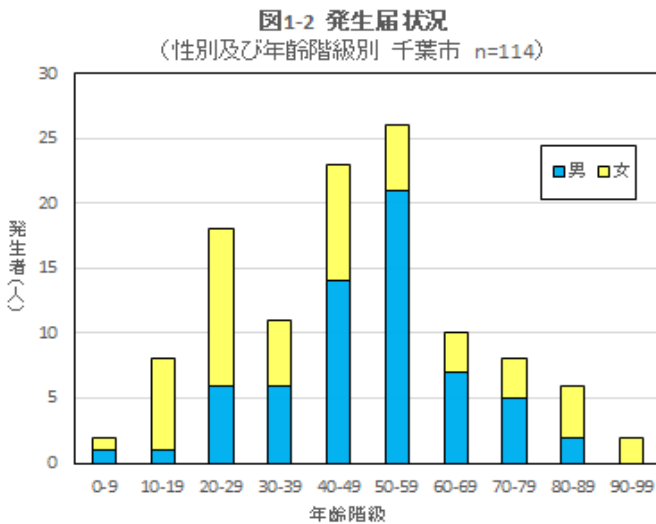
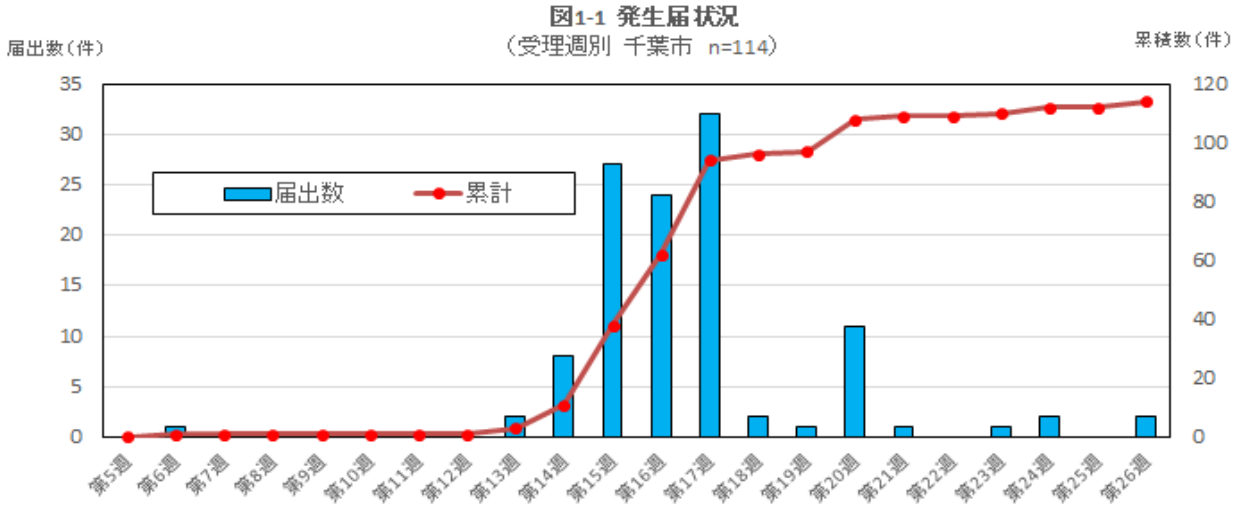
<突発性発しん> 前週より増加した。過去10年の同時期と比べると、2016年と並んで最多。

<トピック>

<新型コロナウイルス感染症>

・発生届

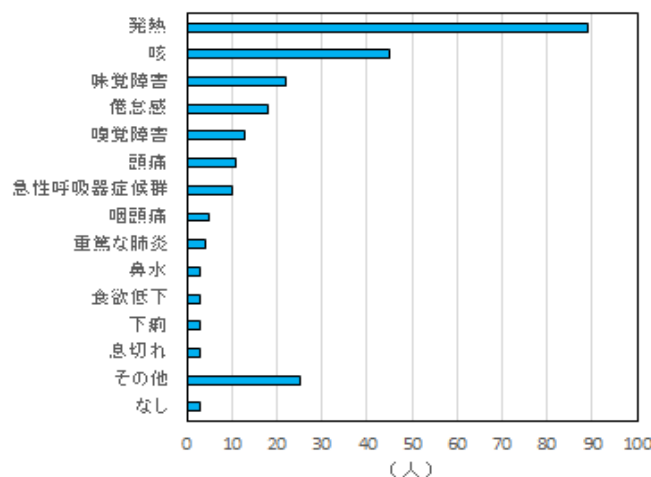
第26週は2件の発生届があり、合計は114件となりました(図1-1)。
 性別では男性が63名(55.3%)、女性が51名(44.7%)で、年齢層は0歳から90歳代まで、年齢中央値は全体で49.5歳で、男性で50.6歳、女性で48.2歳となっています。年齢階級別では50歳代(26名:22.8%)、40歳代(23名:20.2%)、20歳代(18名:15.8%)の順に多くなっています。年齢階級の男女比は、男性は40歳代~70歳代で占める割合が高いことに対して、女性は10歳代、20歳代及び80歳代以上で占める割合が高くなっています(図1-2及び表1)。
 症状は、発熱(89名:78.1%)、咳(45名:39.5%)、味覚障害(22名:19.3%)の順で多くなっています(図1-3)。



中央値	50.6	48.2	49.5	
年齢層	男	女	計	
0-9	1	1	2	1.8%
10-19	1	7	8	7.0%
20-29	6	12	18	15.8%
30-39	6	5	11	9.6%
40-49	14	9	23	20.2%
50-59	21	5	26	22.8%
60-69	7	3	10	8.8%
70-79	5	3	8	7.0%
80-89	2	4	6	5.3%
90-99	0	2	2	1.8%
100-	0	0	0	0.0%
計	63	51	114	100.0%
	55.3%	44.7%	100.0%	

表1 性別及び年齢階級別

図1-3 症状別(重複あり)



・ウイルス検査

千葉市環境保健研究所では、2020年第26週（2020年6月28日時点）までに4312例（検体数4505）について新型コロナウイルス感染症の検査を実施しました。搬入された市中感染・輸入例疑い事例は4054例（うち陰性化確認等248例）となっており、この他クルーズ船関連事例191例（うち陰性化確認126例）、その他陰性化確認等67例の検査を実施しました。

陰性化確認等248例を除いた市中感染・輸入例疑い事例3806例（検体数3948）については、陽性は114例（陽性率：3.0%）でした（図2-1）。陽性率について、年齢階級別では50歳代（5.0%）、10歳代（4.8%）、40歳代（3.9%）の順で多くなっています（図2-2及び表2）。

図2-1 新型コロナウイルス感染症市中疑い事例PCR検査状況

（週別 千葉市：6月28日現在 n=3806）
（クルーズ船乗客等関係者及び陰性化確認検査を除く）

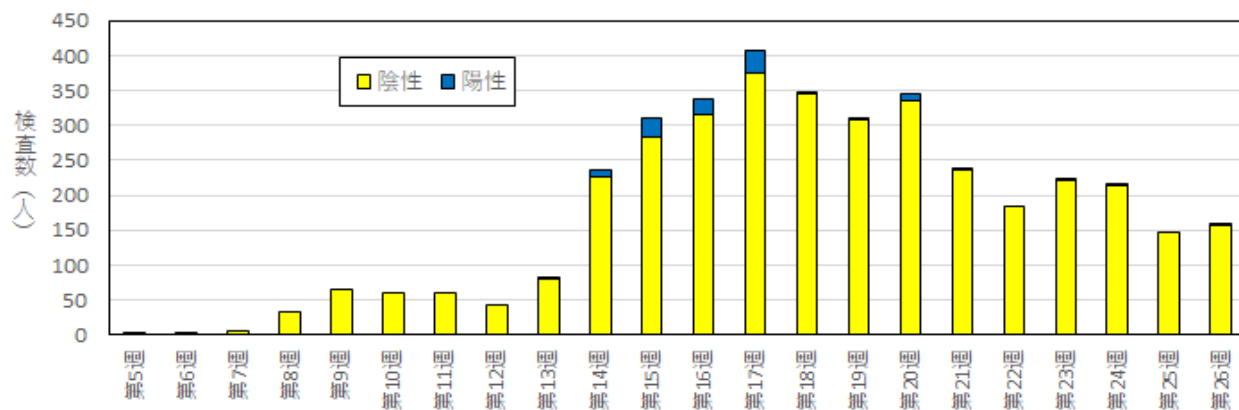
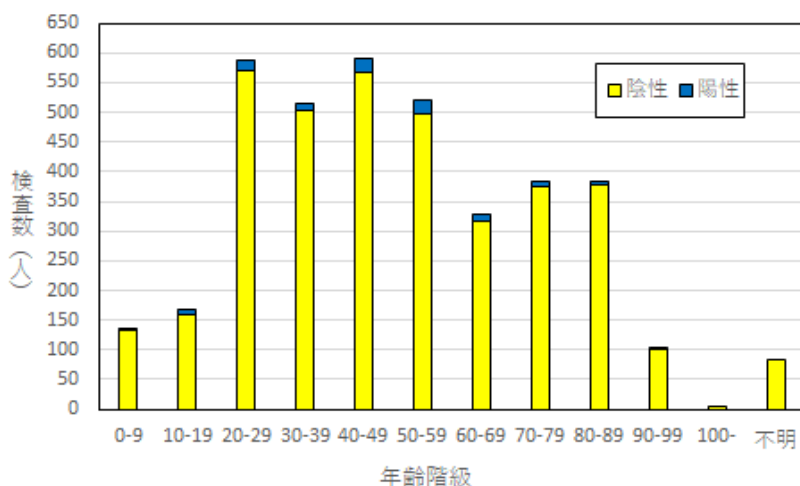


図2-2 新型コロナウイルス感染症市中感染疑い事例PCR検査状況

（年齢階級別 千葉市：6月28日現在 n=3806）
（クルーズ船乗客等関係者及び陰性化確認検査を除く）



年齢階級	陽性	陰性	計	陽性率
0-9	2	134	136	1.5%
10-19	8	160	168	4.8%
20-29	18	569	587	3.1%
30-39	11	504	515	2.1%
40-49	23	568	591	3.9%
50-59	26	496	522	5.0%
60-69	10	318	328	3.0%
70-79	8	376	384	2.1%
80-89	6	378	384	1.6%
90-99	2	100	102	2.0%
100-	0	5	5	0.0%
不明	0	84	84	0.0%
計	114	3692	3806	3.0%

表2 年齢階級別の検査状況

<突発性発しん>

全国レベルは年頭から低いレベルで推移していましたが、第20週から連続して増加しています。第25週現在は前週より増加しましたが、過去10年の同時期と比べると少なめとなっています。都道府県別では、熊本県、福岡県、佐賀県・宮崎県・島根県の順に多く報告されています。千葉県は全国レベルとほぼ同等となっています。千葉市でも第20週から増加傾向となっており、第26週は前週より増加し過去10年の同時期と比べると2016年と並んで最多となりました。2020年第1週から第26週までの累積報告数は238件で、性別では男性が48.3%(115名)、女性が51.7%(123名)となっており、年齢階級別では1歳(56.3%:134名)、6-11か月(23.9%:57名)、2歳(16.8%:40名)の順で多くなっています。

